

The TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ

自民党
豊橋市議団
個人版

New

<http://itotokuya.com/>

伊藤 とくや

Summer, 2021, vol.58

『石垣崩落を踏まえての吉田城址の保存と活用』

『ウィズ&アフターコロナにおける、本市観光再興』を問う！

第58号 ごあいさつ

令和3年度6月議会の一般質問は、かねてより危険を指摘してきた、石垣が崩落した吉田城の整備と今後の利活用、新型コロナウイルス禍により、経営環境が極めて厳しい状況にある本市観光関連産業の復興をテーマに、

① 『令和3年5月22日に生じた吉田城址の石垣崩落を踏まえての吉田城址の保存と活用について』

①安全管理 ②吉田城址の史跡指定 ③保存活用計画

② 『ウィズコロナ、アフターコロナにおける、本市観光再興への認識と対応について』

①本市の現状 ②今後の見通しと方針 ③アウトドアアクティビティ(外遊び・アウトドアスポーツなど)を通じて自然や文化を楽しむ旅 ④吉田城、二川宿を含む旧東海道などの歴史資源を活用した観光の推進について、ピンチをチャンスに、喫緊の課題を議論しました。



石垣崩落を踏まえての吉田城址の保存と活用 【質問の意図】

- 👉 驚くとともに、やはりな！何より怪我人がいなくてよかったな！
- 👉 石垣は高さ4.4メートル、幅3.4メートルに渡って崩れました。
- 👉 私は他石垣修復も含め何度もこの問題を取り上げて来ました。
- 👉 市の修復意向は承知していますが、今回の雪崩れるように崩れ、案内看板を押し倒した状況は、想定外であったと言えます。
- 👉 とここで、今回の石垣崩落を絶好のチャンスととらえ
- 普段は目にする事の無い裏込めの石や、採石した場所の特定など歴史的調査研究が出来る。
- 官民挙げ客観性をもって慎重に調査すべき、との声もあります。
- 👉 明治維新後150年余、地震による崩落を除く、手入れ不足を原因とする城郭の石垣崩落は、全国各地で多々あります。
- 👉 また、同時に考えるべきは利活用です。

🌿 正しくピンチをチャンスに変える時が来ました。

吉田城址の保存や活用における今後の取り組み及び考え方について 【教育部長】

- 「吉田城址」は史跡指定の条件を十分に備えている。
- 豊橋市文化財保護条例に基づき、市史跡指定に向けて「指定の理由や評価」、「指定の範囲」などの検討を行い、土地の管理者、関係機関等との調整を行う段階。
- 「保存活用計画」策定は、史跡指定後に最優先で取り組む。今年度実施する、本丸裏門南側の石垣修復工事については、着手前や石垣の積み直し時に内部の状況を記録する確認発掘調査を行う。
- 通常、石垣内部は見る事ができないため、この機会を捉え、修復担当の公園緑地課と連携を図り、公開の機会や方法を探る。
- 発掘調査や資料調査による新たな知見を正しく捉えていくと共に、シンポジウムや刊行物・ガイドブックなど情報の発信に努める。
- 吉田城址の保存と活用は、車の両輪のように相互に補完しバランスを保ちながら進めていくべきものと考えている。

専門的意見を受け止め、この事業を、どのような体制で、どのような効果を狙い、どのように市民を巻き込み、どのようなスケジュールで進めて行くのか 【教育部長】

- 吉田城址の保護は、教育委員会が中心となり、城郭の専門家など有識者の意見を取り入れ、公園や観光など関係部局と連携を取る庁内体制が必要。
- 事業推進には、市民団体やボランティア等の意見を聞くなど、ステークホルダーの協力を得ながら進めることも重要。
- 現時点では石垣崩落への対応・保全が喫緊の課題だが、史跡指定や保存活用の計画策定も並行して行うべきである。

🌿 再質問

- 👉 本市には教育と産業の先例に「豊橋産業文化大博覧会」がある。
- 会場は「豊橋市吉田城址」とある。(豊橋公園となったのは大博覧会后)
- 戦後復興を遂げつつある昭和29年3月、県と豊橋市の教育委員会が主催した大博覧会で、戦後復興した本市の産業、動物園、吉田城鉄橋が目玉であった。
- 👉 コロナ禍後の本市復興を目指し、教育部、都市計画部、産業部、文化スポーツ部、大河ドラマ「どうする家康」を見通せば、企画部と連携は不可欠と思われる。
- 👉 千載一遇のチャンスは市長の公約！
- 👉 公約「豊橋新時代宣言」！には、豊橋公園内エリアに、郷土歴史博物館や吉田城復元などの建設計画の策定と推進とある。

市長の公約には、『豊橋公園内エリアに、郷土歴史博物館や吉田城復元などの建設計画の策定と推進とある』市長の公約に基づく吉田城の保存と活用のお考えと決意について 【市長】

- 吉田城址は「市民の宝」です。この貴重な文化財を次の世代に引き継ぎ、子供たちに先人の功績を伝え、郷土愛を育むことは、非常に大切であり、吉田城址の保存・活用は、今を生きる我々の重要な責務と考えています。
- 一方、保存・活用には、時間も経費も必要であり、市民の皆様のご理解が必要不可欠です。
- 皆さんに吉田城址に関心を持っていただき、そのご理解とご協力の下で、その保存と活用にしっかりと取り組んでまいりたいと考えています。

🌿 まとめ

重要な責務とのこと、この公約は堂々と実行してほしい。次は観光再興の観点から、再び吉田城について議論させていただく。

ウィズコロナ・アフターコロナにおける本市観光再興への認識と対応

【質問の意図】

- 昨年6月議会の『コロナ禍の感染拡大と観光振興』を次いで議論です。
- 一年経過したが未だコロナは観光産業に多大な影響を与えています。
- コロナ前、わが国は観光立国日本を目指しインバウンド、訪日旅行を主体に展開されてきましたが、今は瀕死の状況と言える。

(1) 現状認識について 【産業部長】

● 観光産業は、交通や飲食、小売りなど関連する産業が多く裾野の広い産業であり、本市経済に与える影響は大きいと認識している。

(2) 今後の観光振興の見通しと方針について 【産業部長】

- Go to トラベル等の支援策の再開も旅に出かけるきっかけとなる。
- 旅行者のマインドが短期間で感染前の状況に戻るとは考えにくく、団体旅行や密集した場所への観光は敬遠され、感染の可能性の低い近距離、少人数、屋外での観光から始まると予想される。
- 感染予防対策を徹底し、安心・安全に楽しめる観光提供に努めたい。

(3) 「東三河」が愛知県で唯一のジャパン・エコトラック公式エリアに認定され、本市はサイクリング、トレッキング、パドリングとして紹介されている。アウトドアアクティビティ(外遊び・アウトドアスポーツなど)を通じて地域の自然や文化を楽しむ旅の推進について 【産業部長】

● サイクリング、サーフィン、トレッキングなど、自然を楽しむアウトドアアクティビティに適した多くの観光資源があり、これらを磨き上げたい。

(4) 吉田城、二川宿を含む旧東海道などの歴史資源を活用した観光の推進について 【産業部長】

- 吉田城と二川宿、それをつなぐ東海道は、歴史的価値があり、観光資源としても重要である。
- 吉田城と二川宿を結ぶ東海道は、コロナ禍において、感染リスクの低い屋外レジャーとして、アクティブシニアを中心とした歴史ファンに人気がある。
- 観光資源ごとに歴史的な背景、ストーリーがあるが、個別なものではなく、それぞれが関連しており、歴史的な魅力で結ばれた観光資源として一体的なPRを効果的に行い、誘客につなげていきたい。

(1)~(3) コロナ禍における今後のインバウンド事業もはじめ、コロナ後のチャンスを活かした観光産業再興の進め方について 【産業部長】

- 世界中でワクチン接種が進むことにより、各国で出入国制限が緩和されていくものと考えられるが、時期については、見通しが立たない状況にある。
- インバウンドは、日本国内の旅行者の動向と同様、観光施設の感染対策や蜜を避けたアウトドアを活かした観光コンテンツへの関心が高くなるものと考えられるため、これらを中心に情報発信を行い、海外からの旅行者の関心を継続できる取り組みを引き続き実施したい。
- 東海道は、アクティブシニアを中心に歴史ファンに人気のあること。
- シニア世代の情報誌から「旅の目的」についてのアンケートを見ると、1位「温泉」、2位「美景・絶景」と続くが、「美食」を5位に抑えて、3位「神社・寺」、4位「博物館・美術館」です。
- 旅行の目的や理由に文化的探究心を挙げており、真正性に関し歴史ファンに応えられる技量を求めています。

(4) 旅の意味の掘り下げるために歴史的文化知識を持った学芸員のノウハウを観光誘客へ活用すべきと考えるが所見について 【産業部長】

- 吉田城など本市観光スポットでは、ボランティアガイドが観光案内を行っているが、専門分野に関するイベント開催時は、学芸員による案内も行っている。
- 今年3月の吉田城址発掘現場公開時における、学芸員による吉田城の高石垣や腰巻石垣、堀などについて詳しい説明は参加者に好評であった。
- 「吉田城 春まつり」では、学芸員監修による吉田城検定の難問に130余名が挑戦、大変好評を得ることができた。
- 近年は歴史に深い知識を求める旅行者も多く、旅行者の満足度を高めるために学芸員と連携した取り組みを進め、誘客につなげたい。
- 学芸員との連携は「ニューツーリズム」にもつながります。

あとがき ● 8月の東三河広域連合議会一般質問では『東三河 DMO(観光地域づくり法人)が果たすウィズコロナ、アフターコロナにおける東三河観光再興について』
 ● 東三河 DMOの想定されるミッション(目的、使命、存在意義、役割)について
 ● コロナ禍の東三河観光産業の現状認識について
 ● ウィズコロナ、アフターコロナに於ける今後の観光振興の見通しと方針について
 ・ アウトドアアクティビティを東三河の自然や文化を楽しむ旅の推進について
 ・ 東三河の数々の街道と、史跡や文化を楽しむ旅の推進について
 ・ 「どうする家康」を活用した観光振興について
 ● 東三河の公共交通を活用し支援する観光振興への認識について、質問しましたが、大変積極的な答弁を頂きました。観光再興は、9月議会の質問シティブロモーションへ続きます。

- 歴史資源を活用した観光の推進だが、歴史的文化知識を掘り下げたことを垂直展開とすれば、同時に考えたいのは水平展開。
- 東海道は垂直展開すると、古代「うちつみち」、中世「鎌倉街道」。
- 水平展開は脇海道です。姫街道(本坂道)、平坂街道、別所街道、伊奈街道、田原街道とひろがる。※「時を旅する 愛知の街道」は必見!
- 「どうする家康」を活かすためにも、視点を変えての歴史的資源の活用は不可欠。

吉田城、二川宿、旧東海道などの資源を一体的に活用する取り組みについて

- 本市の代表的な歴史的資源である吉田城は、この地域の軍事面や交通、経済の要所であったことから、多くの武将が争奪戦を繰り広げており、その戦いの範囲はこの地ばかりでなく多くの地域に及ぶ。
- 二川宿、吉田宿、それらをつなぐ東海道は参勤交代の大名や多くの旅人たちが往来を重ねただけでなく、江戸や京・大阪の文化が交流する重要な交通路として本市の歴史に影響を与えている。
- これらの観光資源活用は、市町村や県の境界を越えて広域的に進めていく必要があることから「愛知のお城観光推進協議会」や「愛知県街道観光推進協議会」及び近隣市町村と連携しながら、それぞれに異なるストーリーや魅力をつなぎ、アピールすることで滞在時間の延長や宿泊の促進、満足度の向上につなげていきたいと考えている。

②まとめ

- まずは本市の観光資産の再活用を考えてはどうか?
- 鉄橋の産業文化大博覧会における設置目的は郷土歴史博物館でした。
- 市長の公約には豊橋公園内に、郷土歴史博物館の建設計画の策定推進とある。
- 鉄橋は産業部が所管なので、「どうする家康」に合わせ、美博では出来ない観光産業の視点で東三河のお城情報を発信し、関連商品をも販売する「城の駅」として活用してみてもどうか?
- 築後74年、産業文化再興のため再び使いたおすことは、復興鉄橋を設計された城戸久名工大教はじめ、事業に汗をかかれた先人も喜ぶと思う。
- 吉田城は岡崎城と浜松城の中ほどにあり、新城市には100名城の長篠城がある。連携すれば立ち寄りやすい訳は無い。学芸員がいれば最高。
- 二川宿は、本陣・旅籠屋・商家の3つがある日本で唯一の施設。本陣に泊まれるといった、今までの範疇を超えた発想が、アフターコロナの観光再興に求められると思う。

②まとめ

- ウィズコロナ、アフターコロナにおける、歴史資源を活用した観光産業の再興を、浅井市長は元気を生み出す地方新時代にどの様に結び付けていくのか、本市の観光再興について質問しました。
- 市長公約に東三河広域連携の機能強化と新たな広域計画がある。
- 次は広域連合議会にて、「どうする家康」の東三河の結束も踏まえ、「東三河広域観光再興への認識と対応について」、観光再興で結果を出せる「水平思考」と「垂直思考」両方の観点から深掘りして、市長の決意を伺います。



豊橋産業文化大博覧会 杉本健吉画伯作

市政報告会のお知らせ

緊急事態宣言が解除された後に開催致す所存です。宜しく願い申し上げます!

発行

伊藤とくや事務所
 豊橋市松葉町 3-70
 ☎090-3855-9696
 FAX : 0532-53-4557
 bbto@me.com